

児童生徒が主人公となる学校づくり

学校

では、子どもたちが自ら考え、主体的に取り組んでいます

「全国いじめ問題子供サミット」で
私たちの取組を紹介してきました!

平成29年1月21日(土)
会場：文部科学省



全国の人に私たちの活動を知らせてあげよう。



全国の学校では、こんな活動もしてるんだ！
私たちの学校でも、できるかな……。



同じ思いを持って、活動している人がたくさんいる！
これからも積極的に活動していくぞ！

大津市立志賀中学校の取組

ピンクシャツデー

●ピンクシャツ型のバッジを作成

学び合い活動

●座席がコの字型
●仲間と助け合える雰囲気づくり

いじめについての思いを書き込んだピンクバッジを付けることで、いじめ撲滅のムードが高まるよ!



生徒同士だからこそわかる悩みを共有し、同じ目線でのアドバイスがもらえるよ!

ピアカウンセリング
●生徒同士の悩み相談

大津市立瀬田北中学校の取組

意見を交流し合うと、みんなの気持ちが変わるよ!

生徒によるいじめ防止ビデオの作成と話し合い

- ①ビデオを作成し上映
- ②ビデオを見て班で話し合い活動
- ③クラスみんなで共有



あいさつ運動

生徒会執行部でみんなに声かけ

キラッときれい大作戦

●ボランティアを募り、学校内外の清掃活動

「きれいな環境って気持ちいい！」
「ボランティアに参加してくれてありがとう！」

守山市立明富中学校の取組

明富中学校人権週間 (キャッチザハート)

SNS問題について

- アンケートの実態からオリジナル劇を作成
- 地域の方と懇談
- 全ての学級で話し合い活動
- 保護者向け生徒会通信発行

全ての委員会による取組

- 階段アート(美化委員会)
- 花壇アート(環境委員会)
- 心のサポーター活動(保健委員会)等



SNSの使い方をしっかり考えないと……。

誰もが安心して楽しく過ごせる学校にしていきたい!



県教育委員が「ふれあい教育対談」として明富中学校を訪れ、生徒会代表のみなさんと対談をしました。

SNSの問題について、全校のみんなには、ただ劇を見て、他人事で終わるのではなく、自分の問題として考えてほしいと思っています。また、お家の方たちにも生徒会通信を発行して、自分たちのやっている取組を知らせてあげようと考えました。

さらに詳しいことは…

SNS…LINE(ライン)やTwitter(ツイッター)などのソーシャルネットワークサービスの略。

滋賀県 いじめ防止等のための取組 検索

問合せ先 幼小中教育課 ☎077-528-4571

スマホ
ケータイ

家庭でのルール作りのポイント

ストップ!いじめアクションプラン (H28.5改訂) より



1. 子ども自身にルールを考えさせる。
2. 親の希望を入れて無理のないルールを作る。
3. ルールを守れなかった時のルールをしっかりと伝えておく。
4. ルールは子どもの成長に合わせて見直す。

1 どんな時に使う ～時間が心配～

- (例)
- 食事中は使わない。
 - お風呂には持ち込まない。
 - 夜〇時を過ぎたら利用しない。
 - 利用は1日〇分まで。
 - 家ではリビング等で使う。
 - 充電器はリビング等に置く。

2 何のために使う ～やりとりが心配～

- (例)
- 個人情報を書かない。
 - 悪口を書き込まない。
 - 迷惑メールに返信しない。
 - チェーンメールを転送しない。
 - 知らない人からメールが来たら保護者に報告する。

3 使うための約束 ～料金が心配～

- (例)
- 明細で料金を確認する。
 - 料金が〇円を超えた分は、おこづかいで払う。
 - 料金が〇円を超えた翌月は、使用しない。
 - 勝手に会員登録や音楽、ゲーム等、ダウンロードしない。



草津市内の全ての中学校では、生徒自らがスマートフォンの使用ルールを決めています。また、学区内の小学校に出向き、スマートフォン使用についての啓発活動を行っている中学校もあります。

草津市立玉川中学校ルール

1. 夜10時以降は使用しない
2. 人の悪口を書かない
3. 個人情報を載せない
4. 困ったら大人に相談する



「教育の力」発信事業

湖国の親子へ贈る言葉

「次の世代へつないでいこう 湖国で育まれた教育の力を、子育てに不安や悩みを抱えながら、日々、子どもと向き合う保護者の方々へ、子育てへの思いや願いのこもったメッセージを届けます。」

子は親の言葉を聞いて育つ

我が子が中学三年生になった時、「どこの高校に行ったのか、なぜそこへ行ったのか」をたずねてきた。進路のことを考え出したな、と思いつきながら、自分の話をした。私も親からいろいろな話を聞いてきたことを覚えている。学校時代の話、戦争当時の生活も聞いた。また、親が近所の人や親戚の人と話をしているのを聞いて、あいさつのしかたや言葉づかいを覚えた気がする。隣の家に物を届ける時の言い方や、雪道を通学する時の注意など、学校では習わない事も教えてくれた。が、私は横を向いて聞いていた。今、自分の子に話をすると、生返事だが、聞いていたことだろう。背中に向かってでも、いろいろと語ってやっていたと思っている。(五十才 女性)

問合せ先

生涯学習課

☎077-528-4654

シリーズ 人権教育

「いじめる」

先日、娘夫婦が孫の小学校入学を機に、一年間の海外勤務から帰ってきました。

ある日、孫が、

「おじいちゃん、お絵かきしよう!」

と誘ってきたので、二人で絵を描いていました。しばらくして、私が、

「肌色、貸して。」

と頼むと、首をかしげて、

「…肌色って?」

「顔とか手とかの色だよ。」

と言つと、また、困った顔をして、少し考えた後、何かひらめいたように何本かのクレヨンを手にとつて、

「はい、どうぞ。」

と差し出してきました。今度は、私の方が訳が分からず、キョトンとしていたら、

「キンダーガーテンには、いろんな肌色のお友達がいいたから。」

という言葉に「ハッ」としました。

孫が差し出しているクレヨンの中から、私の思っていた肌色を選び取ると、そこには、「うすだいたい」と書かれていました。

その日の夕食の時に、クレヨンのことを話すと、娘が私の顔を見て、

「お父さん、肌色が『うすだいたい』とか『ペールオレンジ』に変わったのは、十年以上前のことよ。いろんな肌の色がいるのだから、当たり前ね。」

と言つと、続けて、つれあいが言いました。

「決めつけた考え方にならないように、変えていくことは大切ね。私達が子どもの頃は、まだ、『男だから、女だから』って、決めつけた考え方が、とても強かった。」

「そういえば、ちょうど私が小学生の時、出席番号が男女別から、男女混合になったわ。私は『なんで、いつも女子は後ろなの?』と思ってたから、何か嬉しかったわ。」

「学校もどんどん変わってるんだね。」

「お母さん、海外の学校では、心と体の性が一致しない子のために、男女のどちらか使えるトイレの設置が始まっている所もあるのよ。」

「そういえば、日本でも、子どもが自認している性別の制服を認める学校があると、ニュースで聞いたことがあるわ。」

私は、二人のやりとりを聞きながら、『知らない間に、どんどん変わっているんだなあ。社会の変化に取り残されてしまっているじゃないか。』と、ぼんやり考えていました。すると突然娘が、

「ところで、お父さん、今度ランドセルを買いに行きけれど、女の子だから、赤色にさせようなんて考えてない?」

と尋ねてきました。私は、

「そ、そんなことはないよ。」

と、とっさに答えましたが、内心、『痛いところを突かれたな。』とひやひやしていました。

そして、孫の顔を見ながら、『この子の感性に学ばされたなあ。この子に決めつけや思い込みをさせてしまわないよう、自分の感性を磨いていかなければいけない。』と思いました。

問合せ先

人権教育課

☎077-528-4592